

ISSN 2187-6177

日本語音声コミュニケーション 3

**Japanese Speech Communication 3**

2015. 3

日本語音声コミュニケーション教育研究会

Japanese Speech Communication

製作 ひつじ書房

## 目次

発刊のことば

日本語

論文

日本語音読音声の音長の特徴

—東京方言話者と中国人日本語学習者との比較から—

大庭理恵子・大山浩美 .....1

研究ノート

無アクセント方言における句、発話イントネーションの究明

馬場良二 .....25

著者紹介

雑誌の案内（投稿の方法、連絡先）

編集後記

## 発刊のことば

日本語の音声コミュニケーションとその教育を専門に考える研究会「日本語音声コミュニケーション教育研究会」を、私たちが日本語教育学会のテーマ研究会として作ったのが2006年の4月です。ようやく7年目にして、会誌の発刊という悲願を達成できました。ご協力を賜りました方々に心よりお礼申し上げたいと思います。ありがとうございます。

『日本語音声コミュニケーション』（英語名 *Japanese Speech Communication*）は、マルチメディアを駆使したオンラインジャーナルです。紙媒体の雑誌や本と違って、動画そのもの、音声そのものを掲載することができ、掲載されたものは世界じゅうで視聴されます。文字では書き表せないような、ちょっとした「日本的」な仕草でも、日本語を発音している被験者の口の中を撮ったMRI動画でも、日本語の教室の様子でも、世界に向けて発表することができます。

日本語の音声コミュニケーションとその教育に関する私たちの理解をさらに深め、研究を活性化していくために、本誌をご活用下さいましたら幸甚です。

2013年 3月吉日

「日本語音声コミュニケーション教育研究会」代表幹事  
定延利之

## 著者紹介

大庭理恵子（おおばりえこ）

熊本県立大学文学部講師

主な研究テーマ：日本語教育、日本語の音声、熊本方言。

主要業績：「日本語母語話者と中国人日本語学習者の音読音声における拍とモジュールの音長比較」（pp.705-710, 日本語音響学会聴覚研究会資料 Vol.43 No.9,2013）、「地域社会により順応するための方言教材の開発」（共著 pp.8-9, 日本語教育方法研究会誌 Vol.20 No.2,2013）、「Praat でみる日本語の音読音声の特徴—中国人日本語学習者との比較から—」（pp.10-11, 日本語教育学会予稿集,2014）、「音長比較による日本語発音独習スマホ向けアプリの基礎検討」（共著 pp.220, 電子情報通信学会論文集,2015）

Rieko OHBA

Instructor, Faculty of Letters, Prefectural University of Kumamoto, Japan

Main topics of research: Japanese as second language, phonetics of Japanese, Kumamoto dialect

Main publications: “Comparison of the Sound Duration of Morae and Module in the Speech Data of Japanese Native Speakers and Japanese Language Learners from China”, pp.705-710, *Proceeding of the Auditory Research Meeting Sponsored by the Technical Committee of Psychological and Physiological Acoustics the Acoustical Society of Japan* Vol.43 No.9,2013:”Developing teaching materials for students of Japanese to adapt to a local community”, co-author, pp.8-9, *Journal of Japanese Language Education Methods* Vol.20 No.2, 2013: ”Characteristics of Japanese speech data in Praat -Comparison with Japanese Language Learners from China-“, pp.10-11, *Proceeding of the Society for Teaching Japanese as a Foreign Language*, 2014: “Development of Japanese pronunciation self-study application by the sound length comparison”, co-author, pp.220, *Journal of IEICE*, 2015.

大山浩美（おおやまひろみ）

奈良先端科学技術大学院大学，情報科学研究科，自然言語処理学講座研究員。

主たる研究テーマ：自然言語処理技術を用いた教育支援，第二言語習得，教育工学，日本語教育等

メールアドレス：hiromi-o@is.naist.jp

主要業績：(論文)

「日本語学習者コーパスのための誤用タグの構築について」(pp.102-114, 熊本県立大学日本語日本文学会国文研究第 54 号,2009) “ Automatic error detection method for Japanese particles”, Oyama, H., Matsumoto, Y., pp.55-63, Polyglossia Vol.18, 2010. 「日本語学習者支援のための機械学習による正誤判定について」(pp.87-99, 熊本県立大学 Language Issues Vol.16, 2010)

Hiromi OYAMA.

Researcher, Department of Information Science, Nara Institute of Science and Technology, Japan.

Main topics of research: Educational application of Natural Language Processing, second language acquisition, Education engineering, Japanese language education.

E-mail address: hiromi-o@is.naist.jp.

Main publications: “Designing an error tag set for the corpus of Japanese language learners”, pp.102-114, Japanese Language Literature Research 54, 2009.: “Automatic error detection method for Japanese particles”, Oyama, H., Matsumoto, Y., pp.55-63, Polyglossia Vol.18, 2010: “Automatic error detection method for Japanese language learners”, Language Issues 16, 87-99, 2010.

馬場良二（ばばりょうじ）

熊本県立大学文学部日本語日本文学科教授。

主たる研究テーマは、日本語教育。

主な著書：『初級文化日本語』（文化外国語専門学校、1987年）、『ジョアン・ロドリゲスの「エレガント」』（風間書房、1999年）、『話してみらんね さしより！熊本弁』（2009年、熊本県立大学日本語教育研究室）、『João Rodriguez 『Arte Grande』の成立と分析』（風間書房、2015年）。

Ryoji BABA, Ph D.

Professor, Faculty of Japanese Language and Literature, Prefectural University of Kumamoto, Japan.

Main topic of research: Japanese Language Education.

Main publications: *Bunka Shokyū Nihongo (Basic Japanese of Bunka*, Bunka Institute of Language, 1987); *João Rodriguez no 'Elegant' ('Elegance' of João Rodriguez*, Kazamashobō, 1999), *Hanashite Miran Ne, Sashiyori! Kumamoto-ben (Let's Speak Kumamoto Dialect!*, Laboratory of Japanese Language Education in Prefectural University of Kumamoto, 2009), *João Rodriguez 'Arte Grande' no Sēritsu to Bunseki (The Backgrounds of 'Arte Grande' by João Rodriguez and it's analyses*, Kazamashobō, 2015).

## 雑誌の案内（投稿の方法、連絡先）

『日本語音声コミュニケーション』(*Japanese Speech Communication*) は、日本語音声コミュニケーション教育研究会の会員であれば、どなたでも投稿できます。（但し、会員以外からの投稿も査読委員会の判断で認めることがあります。）

研究会の「入会案内」については、下記の web ページをご参照下さい。

<http://www.speech-data.jp/nihonsei/apply.html>

「投稿要領」と「査読委員会会則」については、下記の web ページをご参照下さい。

<http://www.speech-data.jp/nihonsei/seika.html>

「査読委員会名簿」については、下記の web ページをご参照下さい。

<http://www.speech-data.jp/nihonsei/summary.html>

その他のお問い合わせは、下記までお願い致します。

定延利之（さだのぶとしゆき）（代表幹事）

sadanobu[at]kobe-u.ac.jp（[at] の部分を @ に変えてご送信下さい。）

〒 657-8501 神戸市灘区鶴甲 1-2-1 神戸大学大学院国際文化学研究所

## 編集後記

「教育行政」ということばがある。たとえば、「ゆとり教育」のときには、「自己教育力の養成」が盛り込まれたそうだ。日本国民ならだれもが知っている「ゆとり教育」と私たちの日本語教育とは、むすびつかない。

私は、学生だった頃から、日本語を母語としない学習者たちへの日本語教育と、日本語を母語とする子どもたちへの国語教育とは、同じものだと思っている。なぜなら、どちらも教える対象は「日本語」だからだ。いつの日か二つが一つになっていくだろうと考えていたが、平成にはいつの間もなく、国語科教育法の雑誌が日本語教育の特集を組んだ。おどろいたし、うれしかった。だが、日本語教育が国語科教育から何かを学んだという話は、聞かない。私は、現在の日本における国語科教育に非常に批判的で、あれは言語教育ではない、日本では子どもたちの母語を体系的に構築する言語教育はなされていないと思っている。

しかし、日本国内での教育であれば、日本の「教育行政」の影響をまったく受けないはずがない。少なくとも、その枠組みと私たちの日々の日本語教育との関係を考えることは当たり前のことだと気がついた。

日本語を母語とする子どもたちへの国語科教育と、日本語を母語としない学習者たちへの日本語教育とは、同じ一つのものなのだから。

馬場良二（査読委員長）

日本語音声コミュニケーション 3

Japanese Speech Communication 3

### インタラクティブ PDF 版

発行 2015年3月27日 初版1刷

著者 日本語音声コミュニケーション教育研究会

<http://www.speech-data.jp/nihonsei/index.html>

発行・製作 株式会社 ひつじ書房

〒112-0011 東京都文京区千石 2-1-2 大和ビル 2F

Tel.03-5319-4916 Fax.03-5319-4917

郵便振替 00120-8-142852

[toiawase@hituzi.co.jp](mailto:toiawase@hituzi.co.jp) <http://www.hituzi.co.jp/>

ISSN 2187-6177